

ＪＡバンク宮城における 地域密着型金融の取組状況 (平成27年度)

平成28年12月
ＪＡバンク宮城

はじめに

- JAバンク宮城では、農業と地域社会に貢献するため、JAバンク宮城中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。
- 平成27年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 地域活性化支援

- 農業融資商品の提供
- 利子助成の実施
- 担い手のニーズ対応

2 経営のライフステージに応じた支援

- 次世代農業者の育成
- 農商工連携
- 農業法人とのネットワーク
- 経営改善支援

3 担い手に適した資金供給手法の徹底

- 資本供与
- 負債整理資金

4 持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

- 復興支援
- 食・農への理解促進

目次

- 1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援
 - (1) 農業融資商品の適切な提供・開発
 - (2) 農業融資への利子助成の実施
 - (3) 担い手のニーズに応えるための取組み
- 2 担い手の経営のライフステージに応じた支援
 - (1) 次世代農業者の育成支援
 - (2) 農商工連携の推進
 - (3) 農業法人とのネットワーク拡大
 - (4) 経営不振農家の経営改善支援
- 3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ担い手に適した資金供給手法の徹底
 - (1) 資本供与の取組み（ファンドの活用）
 - (2) 負債整理資金による経営支援
- 4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献
 - (1) 東日本大震災の復旧・復興支援
 - (2) 食・農への理解促進

1 地域活性化支援

- 農業融資商品の提供
- 利子助成の実施
- 担い手のニーズ対応

2 経営のライフステージに応じた支援

- 次世代農業者の育成
- 農商工連携
- 農業法人とのネットワーク
- 経営改善支援

3 担い手に適した資金供給手法の徹底

- 資本供与
- 負債整理資金

4 持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

- 復興支援
- 食・農への理解促進

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

J Aバンク宮城は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

- J Aバンク宮城は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

プロパー農業資金

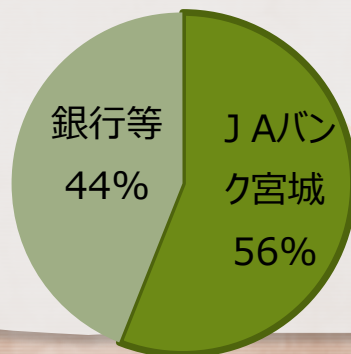
✓ 平成27年度末時点の J Aバンク宮城の農業関係資金残高（注1）は657億円（うち農業経営向け貸付金290億円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金（注2）残高は14億円を取扱っています。

制度資金

✓ J Aバンク宮城は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金（公庫直貸除く）の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【宮城県の農業近代化資金取扱いシェア】

（平成27年12月末時点）出所：農林水産省



（注1）農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関係する事業に必要な資金等が該当します。

（注2）J Aバンク宮城が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫等の貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 単位 百万円

営農類型	平成28年3月末
農業	29,000
穀作	7,360
野菜・園芸	913
果樹・樹園農業	159
工芸作物	14
養豚・肉牛・酪農	2,409
養鶏・鶏卵	2,294
養蚕	—
その他農業（注1）	15,850
農業関連団体等（注2）	36,715
合 計	65,715

（注1）「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

（注2）「農業関連団体等」には、JAや全農およびその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 単位 百万円

種 類	平成28年3月末
プロパー農業資金（注3）	60,108
農業制度資金（注4）	5,607
農業近代化資金	3,596
その他制度資金（注5）	2,011
合 計	65,715

（農業資金の受託貸付金残高） 単位 百万円

種 類	平成28年3月末
日本政策金融公庫資金（注6）	1,387
その他	8
合 計	1,394

（注3）プロパー農業資金とは、JAバンク宮城原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

（注4）農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンク宮城が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは①の転貸資金と②を対象としています。

（注5）その他制度資金には、農業経営改善促進資金（スーパーS資金）や農業経営負担軽減支援資金等が該当します。

（注6）JAバンク宮城では、主にはJAを窓口として、日本政策金融公庫資金等の受託貸付金を取り扱っています。

(2) 農業融資への利子助成の実施

- 農業者に対する農機ハウスローン、アグリマイティ資金、スーパーS資金等の融資について、農業振興等に貢献するために創設されたJAバンクアグリ・エコサポート基金が最大1%の利子助成を行い、農業の担い手をサポートしています。
- 平成27年度は宮城県で788件、1,323万円の利子助成を行いました。

【農業融資への利子助成の実績】

単位 件, 百万円

種 類	件数	助成金額
JAバンク利子助成	722	13
JAバンクアグリサポート利子助成事業	66	0.4
合 計	788	13

(3) 担い手のニーズに応えるための取組み

- JAバンク宮城では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。

担い手金融リーダー の設置

✓ JAでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として、豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、平成27年度末時点で14 JA・30名配置しています。

JAバンク農業金融 プランナーの設置

✓ JA系統独自の農業融資資格制度「JAバンク農業金融プランナー」を導入しており、有資格者は平成27年度末時点で県内に118名誕生しています。農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

担い手サポートセン ターの構築

✓ JAグループ宮城では、JA宮城中央会・全農みやぎ・農林中金仙台支店のワンフロア化と担い手への「出向く体制」の強化を目指して「担い手サポートセンター」を構築しており、担い手に対し事業部門を横断した総合的なサポートに取り組んでいます。

- 農林中金仙台支店では、JAのサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築しており、これらの機能の拡充、強化に努めています。

【具体的取組事例－担い手のニーズに応えるための取組み】

JAグループ宮城 営農と信用の連携研修会（担い手金融リーダー会議）の開催

1 経緯	JAバンク宮城では、県下全14JAの担い手金融リーダーおよびJA営農部門職員を対象に、担い手対応にかかる事業間連携の強化に向けて研修会を開催しました。	
2 概要	日時/場所	平成27年8月27日/JAビル宮城（仙台市） 平成28年3月2日/JAビル宮城（仙台市）
	参加人数	県下JA、JA宮城中央会、全農みやぎ、宮城県農信基、農林中金仙台支店（計60名ほど）
3 成果	✓平成27年8月27日の研修会では、やさい屋まるちゃんの田村様を招聘し、有識者講演「農業の魅力発信」として、若い女性の新規就農者がどのように農業の魅力を発信しているか、女性的な観点からご講演いただきました。 ✓平成28年3月2日の研修会では、自社で資源循環型農業をテーマに農業経営に取り組まれている宮城県農業法人協会の郷右近会長を招聘し、有識者講演「地域農業の現状とJAグループに期待する事」として、JAグループのあるべき姿や農業の可能性についてご講演いただきました。	



【具体的取組事例－担い手のニーズに応えるための取組み】

JAグループ宮城 担い手サポートセンターの構築

1 経緯	JAバンク宮城では、東日本大震災により被災した農業者への支援を目的に、平成26年10月に担い手経営体支援チームを設置。平成27年10月には、担い手支援を県域全体に水平展開するため、担い手サポートセンターに拡充し、被災農業者の支援や大規模化する担い手への支援に取り組みました。	
2 概要	参加団体	JA宮城中央会、全農みやぎ、農林中金仙台支店
	取組み内容	県域企画応援事業、JAと連携した支援先のリストアップ、担い手の組織化に向けた支援等
3 成果	✓ JA宮城中央会、全農みやぎ、農林中金仙台支店のワンフロア化により、担い手支援にかかる課題共有や、各事業を横断した総合的な視点からの支援検討・実施、担い手への「出向く体制」の強化を図り、担い手支援の拡充に取り組んでいます。 ✓ また、JAと連携しながら、各種支援事業や専門家（社労士、税理士等）を招いた現地相談会、地域の農業法人等を対象とした研修会を行っています。	

1 地域活性化支援

- 農業融資商品の提供
- 利子助成の実施
- 担い手のニーズ対応

2 経営のライフステージに応じた支援

- 次世代農業者の育成
- 農商工連携
- 農業法人とのネットワーク
- 経営改善支援

3 担い手に適した資金供給手法の徹底

- 資本供与
- 負債整理資金

4 持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

- 復興支援
- 食・農への理解促進

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

J Aバンク宮城は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

- JAバンク宮城では、次世代農業者の育成支援に取り組んでいます。

制度資金

✓平成27年度末時点において、就農施設等資金をはじめとする就農支援資金の取扱い残高は1億7,600万円です（注1）。

新規就農応援事業

✓JAバンクアグリサポート事業の一環として、新規就農応援事業を創設し、新規就農希望者（研修生）およびその育成を行う農家等（研修受入先）に対して費用助成を行っています。

✓平成27年度は、研修生に対する営農支援事業43件の取組みに対して860万円、研修受入先に対する研修支援事業8件の取組みに対して405万円の助成金を交付しました。

（注1）就農支援資金は平成26年度までの旧制度に基づく制度資金です。新規貸付は終了しましたが、継続貸付を行っています。

【具体的取組事例－次世代農業者の育成支援】

J Aグループ担い手営農復興支援ビッグフェア2015in宮城

J Aグループ担い手営農復興支援ビッグフェスタ2015in宮城

1 経緯	J Aバンク宮城は、系統農機メーカーと連携して開催した農機大展示会において、担い手に対して復旧・復興に資する情報やコスト低減対策等を提案するブースを設け、担い手の営農を支援するためのイベントを開催しました。	
2 概要	日時/場所	平成27年6月25日・26日/グランディ・21（宮城郡） 平成27年11月20日・21日/夢メッセみやぎ（仙台市）
	参加人数	各会およそ2,000人
3 成果	✓農業資金ニーズ把握のためのアンケートを実施し、農機購入の相談等を受け付けました。 ✓また、来場者にJ Aバンクグッズを進呈し、J Aグループの取組みをご紹介しました。	



(2) 農商工連携の推進

- JAバンク宮城では、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

セミナーの開催

✓ 一流の経営者を招いた講演会や、6次産業化・輸出・ファンドに関するセミナー等を開催し、担い手の経営力向上に貢献しています。

商談会の開催

✓ 国内外を視野に入れた販売力強化、6次産業化による付加価値向上を図るべく、「復興支援プログラム」に基づく支援の一環として、第5回目となる東北復興商談会を開催しました。



【具体的取組事例－農商工連携の推進】

第3回東北アグリエコセミナーの開催

1 経緯	JAバンク宮城では、農商工連携・6次産業化、販路拡大の支援、また異業種交流の機会提供を目的に、セミナーを開催しました。	
2 概要	日時/場所	平成27年11月11日/ホテルメトロポリタン仙台（仙台市）
	参加人数	農業法人、小売業者や輸出業者等の企業、行政団体（農政局・宮城県）、JA系統、JF等（計96名）
3 成果	✓セミナーでは、外部講師4名による農商工連携に関する講演会を行いました。 ・「東北かけはしプロジェクトの取組と今後の方向性について」（㈱イトーヨーカ堂様） ・「日本農業経営大学校等を通じた農業者育成の取組みについて」（AFJ様） ・「直売所とレストランを拠点としたJAの地域交流事業について」（JAおうみ富士様） ・「地方創生における農林水産業の役割とその活性化について」（東北農政局長様） ✓参加者からは「普段は接点を持ってない講師の方から生の最新情報や先進事例等を聞いて視野が広がった」、「農中らしいセミナー。人脈を広げる機会になった」等の意見をいただきました。	



【具体的取組事例－農商工連携の推進】

東北復興商談会の開催

1 経緯	JAバンク宮城では、東北地域の農林水産品の国内外への販路拡大・開拓に取り組むことで、農林水産業の東日本大震災からの復興につなげるために、商談会を開催しました。	
2 概要	日時/場所	平成28年2月23日/江陽グランドホテル（仙台市）
	参加団体	135団体（セラー団体：60団体、バイヤー企業：75社）
	商談案件	商談件数：183件，成約案件：15件，商談継続案件：137件
3 成果	✓5回目の開催となる今回は、東北各地から、JA・農業法人・JF・水産加工会社等60団体がセラーとして出展しました。また、バイヤー企業は、産業界と連携して、東北・関東・関西から過去最多となる75社を招致し、当日は合計183件の商談が行われました。 ✓セラー団体からは、「復興を後押ししたいとの商談会だったのでうれしかった」、「今後、成約に期待が持てる企業が多かった」等の意見が寄せられました。 ✓また、商談会併設イベントとして、試食の提供および食品輸出セミナーの開催を行い、参加者の好評を得ることができました。	



(3) 農業法人とのネットワーク拡大

- JAバンク宮城では、農業法人とのネットワーク拡大、関係強化に取り組んでいます。

農業法人会の設立

✓県下JAにおいて、管内の農業法人により構成される協議会を立ち上げ、農業法人の設備投資や経営の効率化、農畜産物の付加価値向上等法人が抱える諸課題の解決を支援するための取り組みを行っています。

農業法人協会との連携

✓農林中金は公益社団法人日本農業法人協会と包括的なパートナーシップ協定を締結しています。

✓農林中金仙台支店においても、宮城県農業法人協会の会長・副会長・事務局3役と金庫支店長以下で県内農業情勢等にかかる意見交換を実施する等、リレーション強化に向けた取り組みを行っています。

宮城県農業会議への加入

✓平成27年度、農林中金仙台支店は、担い手の経営支援・新規就農支援・農地の転用にかかる認可等の事業を行う宮城県農業会議に加入し、情報交換と事業の連携に取り組んでいます。

(4) 経営不振農家の経営改善支援

- JAバンク宮城では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導等、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【農業者の経営改善支援取組実績】

区分	経営改善支援 取組先 (注1) a	aのうち再生 計画策定先 b	aのうちランクアッ プ先 (注2) c	aのうち債務者 区分不変先 (注3) d	事業計画 策定率 b/a	ランクアップ率 c/a
正常先	2	0	-	2	0%	-
要注意先	25	6	8	16	24%	32%
破綻懸念先	15	11	3	10	73%	20%
実質破綻先	44	11	6	35	25%	14%
破綻先	0	0	0	0	-	-
合計	86	28	17	63	33%	20%

(注1) 経営改善支援取組先は、JA・農林中金仙台支店が再生計画の策定等、経営改善支援に取り組んだ先として指定したものをいいます。

(注2) ランクアップ先とは、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先をいいます。

(注3) 債務者区分不変先とは、期末の債務者区分が 期初と変化しなかった先をいいます。

1 地域活性化支援

- 農業融資商品の提供
- 利子助成の実施
- 担い手のニーズ対応

2 経営のライフステージに応じた支援

- 次世代農業者の育成
- 農商工連携
- 農業法人とのネットワーク
- 経営改善支援

3 担い手に適した資金供給手法の徹底

- 資本供与
- 負債整理資金

4 持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

- 復興支援
- 食・農への理解促進

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

JAバンク宮城では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 資本供与の取組み（ファンドの活用）

- J Aバンク宮城では，農業振興や環境に貢献する取組みを行う企業に投資し，その成長を支援しています。
- 上記の投資を行う「アグリビジネス投資育成株式会社」は，農業法人投資育成制度にかかる業務を行うため，J Aグループと日本政策金融公庫の出資により設立された法人です。農業法人への出資等を通じて，その健全な成長発展を図り，もって農業の持続的な発展に寄与することを目的としています。

【ファンド出資による担い手支援の実績】

単位 件，百万円

ファンド名	27年度実績		累計実績	
	件数	金額	件数	金額
アグリシードファンド	0	0	3	24
復興ファンド（注1）	7	120	24	380

（注1）復興ファンドの対象は，東日本大震災の被災企業を対象とします。

(2) 負債整理資金による経営支援

- JAバンク宮城では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【負債整理資金貸出実績】

単位 件, 百万円

資金名	平成28年3月末残高
農業経営負担軽減支援資金（注1）	55
畜産特別資金（注2）	146
土地改良負担金償還平準化資金	59
負債整理資金	283
合計	543

（注1）農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、JA等の融資機関において取り扱っています。

（注2）畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、JA等の融資機関において取り扱っています。

1 地域活性化支援

- 農業融資商品の提供
- 利子助成の実施
- 担い手のニーズ対応

2 経営のライフステージに応じた支援

- 次世代農業者の育成
- 農商工連携
- 農業法人とのネットワーク
- 経営改善支援

3 担い手に適した資金供給手法の徹底

- 資本供与
- 負債整理資金

4 持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

- 復興支援
- 食・農への理解促進

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク宮城では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 東日本大震災の復旧・復興支援

- JAバンク宮城では、東日本大震災等、全国各地での災害等の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置しているほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じた償還条件の緩和等に対応しました。

東日本大震災特別 対策利子補給

✓県下JAにおいては、東日本大震災で被害を受けた農業者の復旧・復興に向けて、県の災害資金のほかに低利のJA独自災害資金を創設しています。

✓また、これらの県災害資金とJA独自災害資金に対し、JAバンク宮城では被災農業者の負担を軽減するための利子補給を行っております。平成27年度は469件、503万円の利子補給を行いました。

復興支援プログラム

✓平成23年4月に創設した「復興支援プログラム」に基づき、被災された農林漁業者への金融・経営支援に加え、生産資材の助成・寄贈を実施し、農林漁業者を全力かつ多面的に支援しております。

【具体的取組事例－東日本大震災の復旧・復興支援】

J A 名取岩沼管内の被災生産者に対する営農再開支援の実施

1 経緯	J Aバンク宮城では、東日本大震災により甚大な被害を受けた農林水産業の復興を支援するための「復興支援プログラム」に基づく営農再開支援を行っております。今般、津波被害を受けた農地のうち、耕作農地の半分以上が被災した農家を対象に、農業資材および農業機械等の費用助成を行いました。	
2 概要	日時/場所	平成27年8月27日/ J A 名取岩沼管内（名取市）
	参加人数	支援対象者， J A 名取岩沼， J A 全農宮城県本部， 農林中金仙台支店（計16名）
	助成内容	土壌改良剤， 特殊作業機， 農業機械， 園芸用農機・施設導入， パレット・フレコン袋等の費用の一部
3 成果	✓営農再開に必要な農業資材および農業機械等の費用助成を行うことで，被災生産者の営農再開の一助となりました。	



(2) 食・農への理解促進

- JAバンク宮城は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布

✓教材「農業とわたしたちの暮らし」は、JAバンク宮城を通じて、県内の多くの小学校へ配布され、学校の授業等において活用されています。

農業体験学習

- ✓県下JAでは、食農教育等の実践活動に取り組んでいます。
- ✓農林中金仙台支店はこれらの活動費用の一部を助成し、JAによる食農教育や地域貢献の取組みを支援しています。
- ✓平成27年度は県内26件の取組みに対して、478万円の助成金を交付しました。

【宮城県における教材本の配布部数】

教材の種類	小学校数	配本数
農業とわたしたちの暮らし (通常版)	県内全域の 小学校	約25,000部
農業とわたしたちの暮らし (特別支援教育版)	36校	約300部

【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

活動名	活動内容
バケツ稲作り	バケツの田んぼで米作りを体験し、農業に対する理解を深めてもらうために実施しました。
学童農園支援	管内小学校・幼稚園の学童農園による栽培・観察を通して、農業への関心を喚起する目的で、学童農園における栽培指導と肥料等の無償提供を実施しました。
伝統料理の伝承交流会	地元の高校生を対象に、地域で作った地場産農産物を使用して伝統料理を伝習する料理教室を実施しました。また、米粉を使ったスイーツづくり体験も行っています。
わんぱく体験あぐりスクール	農業の楽しさ・食の大切さを伝える目的に、管内の小学生・親子を対象にあぐりスクールを開講しました。農作業体験・料理教室・青果市場の見学会等を実施しました。

